

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
専門学校 穴吹動物看護カレッジ		平成18年3月23日		岩澤 正俊		〒760-0047 香川県高松市塩屋町6-2 (電話) 087-826-2222																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人穴吹学園		平成3年4月10日		穴吹忠嗣		〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-2266																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																				
文化・教養	文化・教養専門課程	動物看護総合学科		平成22年文部科学省 告示第3号	-																				
学科の目的	トリミングやトレーニングができる動物看護師を育てることを目的とする																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
3年	昼間	2700時間	1200時間	0時間	1500時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
90人		73人	0人	8人	5人	13人																			
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験・実技評価・出席率等で評価 評価はA,B,C,Dの4段階とし、A,B,Cを合格とする。																				
長期休み	■夏季:7月~9月で校長が定めた日 ■冬季:12月~1月で校長が定めた日 ■春季:3月~4月で校長が定めた日			卒業・進級 条件	原則として下記条件をすべて満たした者 ① 成績評価C以上 ② 年間出席率80%以上 ③ 学費が納入されている																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人とのまた、保護者を含めた三者面談の実施			課外活動	■課外活動の種類 清掃活動  ■サークル活動: 有																				
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 動物病院、ペットショップ等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 面接練習・社会人基礎講座・インターンシップの実施				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動物看護師統一認定 機構 動物看護師資 格</td> <td>3</td> <td>16人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>JKCTリマールC級</td> <td>3</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>3</td> <td>14人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人</td> <td>3</td> <td>16人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	動物看護師統一認定 機構 動物看護師資 格	3	16人	13人	JKCTリマールC級	3	16人	16人	愛玩動物飼養管理士1級	3	14人	12人	損害保険募集人	3
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
動物看護師統一認定 機構 動物看護師資 格	3	16人	13人																						
JKCTリマールC級	3	16人	16人																						
愛玩動物飼養管理士1級	3	14人	12人																						
損害保険募集人	3	16人	13人																						
		■卒業生数 16人																							
		■就職希望者数 15人																							
		■就職者数 : 15人																							
		■就職率 : 100%																							
		■卒業者に占める就職者の割合 : 100%																							
		■その他																							
		(令和2年度卒業者に関する 平成33年3月15日 時点の情報)																							
中途退学 の現状	■中途退学者 2名		■中退率 1.7%		令和2年4月1日時点において、在学者118名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者116名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、精神的病気、経済的等																				
	■中退防止・中退者支援のための取組 ガイダンスの実施、関連セミナーの参加等																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 穴吹カレッジ特待生制度、穴吹カレッジ社会人特待制度、穴吹カレッジ納入金免除制度  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科の ホームページ URL	http://www.anabuki-college.net/																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

動物病院で働く動物看護師として必要な知識と技術を習得するためのカリキュラムを編成している。  
診療現場で役立つ確かな作業を身につけるため、実際に診療にあたっている獣医師、看護師から技術を学び、又自分で考え、迅速に的確な作業を行うための獣医療知識を獣医師、看護師から学べるカリキュラム編成を行っている。  
このようなカリキュラム編成、授業内容について編成委員から広く意見をいただき、必要とされる動物看護師を養成するためのプログラムを改善構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年9月30日現在

名前	所属	任期	種別	学科
石川 勲	香川県健康福祉部生活衛生課	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	①	
篠原公七	有限会社ブリード 取締役(獣医師)	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③	動物看護総合
澁谷 泉	国立大学法人鳥取大学農学部共同獣医学科	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	②	
鈴木 ひとみ	サカイ商事株式会社 プーキー高松店 店長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③	動物健康管理ペット美容・グルーマ
原 有希	高知ラブドッグスクール 副所長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③	動物健康管理しつけインストラクター
岩澤 正俊	専門学校穴吹動物看護カレッジ			
荒岡 杉	専門学校穴吹動物看護カレッジ			
清水 泰	専門学校穴吹動物看護カレッジ			
采元 健二	専門学校穴吹動物看護カレッジ			

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回開催(第1回 11月・第2回 2月 予定)

(開催日時)

第1回 令和2年11月 11日 14:30～15:30

第2回 令和3年 2月15日 14:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・H31年度から看護総合学科系では遠隔授業を開始し、遠隔授業実施に関して貴重なご意見をいただいた。R2年度からは新型コロナウイルスの影響で全学科で座学を中心にオンライン授業を取り組むことになった。オンライン授業では、遠隔授業でご意見をいただいたことを念頭に置き実施をしたが、エリアによって音声・画像の乱れもあり影響が少ない実施方法(事前資料の配布など)の工夫を行い、今後の授業の可能性を感じることができた。オンライン授業についての学生へのアンケートでは、おおむね良かったとの意見が多かった。今後は座学だけでなく、実習をどのようにしていくかが課題でもある。

・社会人として将来役立つコミュニケーション能力を作れる授業があれば積極的に取り組んでほしいとのご意見があり、R2年度9月から新たな教材会開発を行い高松校だけでなくすべてのエリアでR3年度から新規教材を使った【社会人基礎講座】を開講予定。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学内で身につけた知識、技術が企業等と連携した取り組みを通じてより一層のスキルアップにつながるようにする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当授業部分に関しては、期末に成績評価を企業の授業担当者が行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
トレーニング実習	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	株式会社ドッグアドベンチャー
動物看護実習	2次診療専門病院にて実際の患者動物の治療、手術、検査にかかわりながら、手技を理解する	鳥取大学農学部共同獣医学科
外科動物看護学実習	動物医療における外科的手法や知識を習得する。	大平犬猫病院
AAA実習	動物介在活動の意義を理解し、よりよい活動方法を考える。	株式会社日本ドルフィンセンター 有料老人ホーム

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

現在就いている職または将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な能力を及び資質等の向上を図るため、教員は学内および学外で研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げそれを教育の現場で反映させていくこととする。

学校は、教職員研修規定に従い、教員の業務経験や能力に応じて、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に関しては「管理者研修」、また各々指導分野における実務研修・見学研修を計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トリマー自主研修」(連携企業等: ジャパンケネルクラブ)

日時: 令和2年10月14日(水) 対象: トリマー系教員1名(実務年数1年以上)

内容: プードルの似合わせカットとカラーリングマニア口

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ループリック評価研修」(主催: 講師招聘による内部研修)

日時: 令和2年8月19日(水) 対象: 教員2名(実務経験10年以上)

内容: ループリック評価の基本理解と評価表の作成口

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「折れない学生の育て方」(主催: 株式会社 ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)

日時: 令和3年10月14日(木) 対象: 教員1名(実務経験2年)

内容: 教員力を上げるPSA診断&PSAコーチング口

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育活動の観察や意見交換などを通じて、学校運営及び教育活動などの評価を積極的に行い、その結果に基づき改善を図ることでより良い人材の育成に努める

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	教育理念、目的、育成人材像が定められているか、等
(1) 教育理念・目標	教育理念に沿った運営方針が策定されているか、等
(2) 学校運営	教育理念に沿った教育課程の明文化、実施ができているか、等
(3) 教育活動	資格取得向上、就職率向上が図られているか、等
(4) 学修成果	退学率の低減、就職等進路支援の充実は図られているか、等
(5) 学生支援	設備、教育環境は整っているか、防災、安全管理の体制は十分か、等
(6) 教育環境	学生募集は積極的・効果的に実施されているか。納付金の取り扱いは適切か、等
(7) 学生の受入れ募集	財務基盤は安定しているか。財務情報の公開は適切か、等
(8) 財務	法令順守と適正な運営がなされているか。自己評価を実施し公開しているか、等
(9) 法令等の遵守	学校の教育資源や施設を利用し社会貢献・地域貢献できているか、等
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員からのコメントや意見をもとに、各評価項目の改善に取り組んでいる  
卒業生の就労状況の把握、離職の把握などの必要性に指摘があり、卒業生に対する現状把握に取り組んだ

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
木村昭代	南天堂薬局	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	近隣居住者委員
蓮井良太	はすい動物病院	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	業界委員
木村紗也歌	はすい動物病院	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	卒業生
加藤 猛	学生保護者	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	PTA
森川崇	元県立観音寺中央高校校長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	元高校関係委員
池田 宏樹	県立農業経営高等学校校長	令和3年7月1日～令和3年10月31日(3か月)	高校関係委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業などの関係者に学校運営及び教育活動等の理解を深めていただくため、積極的に情報を公開し説明に取り組む。情報公開のツールとしてホームページ、学校パンフレット、募集要項等を利用する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画、等
(2) 各学科等の教育	定員数、入学数、卒業者数、カリキュラム、資格取得の状況な、等
(3) 教職員	教職員の概要、等
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、職業支援等への取り組み状況、等
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動の取り組み、等
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況、等
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援(奨学金、授業料免除等の案内)、等
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支決算書、等
(9) 学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、等
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護総合学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ実習	コンピュータの基本操作から応用までを学ぶ。目標としてワードとエクセルの資格試験合格を目指す。	1後 2前	60	2			○	○			○	
○			社会人基礎講座	社会人として必要な常識・マナーを身に付ける。自立に向けての意識の向上を図り、就職活動の早期化・活性化を実現する。	1通 2前	150	10	○			○		○		
○			ペット美容学	犬の健康維持と手入れの基本を学び、顧客の相談に対応できるようにする。	2後 3後	60	4	○			○		○		
○			犬種標準学	犬の種類と特徴を知ること、犬との触れ合い方や飼養方法を学ぶ。	1通	60	4	○			○		○		
○			グルーミング実習	グルーミング(犬の美容)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方を学ぶ。	1通	150	5			○	○		○		
○			トリミング実習	トリミング(犬のカット)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方、様々なカット様式を学ぶ。	2通	150	5			○	○		○		
○			プロフェッショナルトリミング	より高度なトリミング技術を習得し、JKCトリマーC級試験合格を目指す。	3通	210	7			○	○		○		
○			トレーニング実習	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	1通 2通 3通	180	6			○	○			○	○
○			動物繁殖学	犬の繁殖に関して、繁殖適期や禁忌となるブリーディングなどについて学ぶ。	3前	30	2	○			○		○		
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護総合学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			動物行動学	動物、おもに犬についての生態、行動を学び理解する。動物と人間がいかに共存できるか学習する。	1前	30	2	○			○			○	○
○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みと解剖学及び生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解する。	1通	120	8	○			○		○		
○			動物臨床看護学各論	様々な状況による看護方法の違いを学ぶ。	2通 3通	120	8	○			○		○		
○			動物病理学	動物の疾患の原因や成り立ちについて学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
○			動物薬理学	薬剤の作用機序、投与方法、副反応、分類について学ぶ。	3通	60	4	○			○		○		
○			動物感染症学	動物の周りにおける感染症についてその原因・成り立ちについて学ぶ。	1通 2前	90	6	○			○			○	
○			公衆衛生学	動物と人が共生するために必要な衛生環境の整備について学ぶ。	2後 3前	60	4	○			○		○		
○			動物看護学概論	動物看護がどういう学問で、看護を提供するために必要なことを学ぶ	1通	60	4	○			○		○		
○			動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を習得する。	3後	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護総合学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物医療関連法規	獣医療現場及び公衆衛生、環境、動物関連の法規について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
○			動物福祉・倫理	動物が幸福な生活を送るために必要な取り扱い方法や人と共存するための術を学ぶ。	3後	30	2	○			○		○		
○			伴侶動物学	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。	1通	60	4	○			○		○		
○			産業・実験・野生動物学	産業動物及び実験動物の歴史や品種、飼育管理方法及び関わり、さらに日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ。	2後 3通	90	6	○			○		○		
○			動物臨床栄養学	動物のライフステージ別の栄養管理や疾患による栄養要求の違いを学び管理方法を理解する。	2通	60	4	○			○		○		
○			動物医療コミュニケーション	動物病院スタッフ間のコミュニケーション方法を学ぶ。	3後	30	2	○			○		○		
○			動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	2通	60	4	○			○		○		
○			動物臨床検査学実習	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、臨床検査看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2通 3前	90	3			○	○			○	
○			動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。	2通 3後	90	6	○			○			○	○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物看護総合学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2通	60	2			○	○			○	○
○			動物内科看護学	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	3前	30	2	○			○		○		
			動物形態機能学実習	動物の身体の携帯と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1通	60	2			○	○		○		
			動物内科看護学実習	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力と修得する。	2通	60	2			○	○		○		
			動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3通	60	2			○	○		○		
○			AAA実習	動物介在活動の意義を理解し、よりよい活動方法を考える。	3通	60	2			○		○	○		○
○			動物看護総合実習	一定期間企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行う。	1後 2後 3後	180	6			○		○			○
合計			34 科目		2700単位時間( 136単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
期末試験・実技評価・出席率等で評価 評価はA, B, C, Dの4段階とし、A, B, Cを合格とする。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																										
専門学校 穴吹動物看護カレッジ	平成18年3月23日	岩澤 正俊	〒760-0047 香川県高松市塩屋町6-2 (電話) 087-826-2222																																										
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																										
学校法人穴吹学園	平成3年4月10日	穴吹忠嗣	〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-2266																																										
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																								
文化・教養	文化・教養専門課程	動物健康管理学科 ペット美容・グルーマー専攻		平成20年文部科学省 告示第3号	-																																								
学科の目的	ペット分野で即活躍できるトリマーを育てることを目的とする																																												
認定年月日	平成26年3月31日																																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																						
2年	昼間	1800時間	720時間	0時間	1080時間	0時間	0時間																																						
単位時間																																													
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																								
40人	42人	0人	6人	2人	8人																																								
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験・実技評価・出席率等で評価 評価はA,B,C,Dの4段階とし、A,B,Cを合格とする。																																								
長期休み	■夏季: 7月～9月で校長が定めた日 ■冬季: 12月～1月で校長が定めた日 ■春季: 3月～4月で校長が定めた日			卒業・進級 条件	原則として下記条件をすべて満たした者 ① 成績評価C以上 ② 年間出席率80%以上 ③ 学費が納入されている																																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人とのまた、保護者を含めた三者面談の実施			課外活動	■課外活動の種類 清掃活動  ■サークル活動: 有																																								
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 動物病院、ペットショップ等  ■就職指導内容 面接練習・社会人基礎講座・インターンシップの実施  <table border="1"> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>17</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>17</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>17</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>100</td> <td>%</td> </tr> </table> ■その他  (令和2年度卒業生に関する 平成33年3月15日時点の情報)			■卒業生数	17	人	■就職希望者数	17	人	■就職者数	17	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合				100	%	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JKCTリマー C級</td> <td>3</td> <td>17人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>全国動物専門学校協会サロントリマー1級</td> <td>3</td> <td>17人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>JKCハンドラー C級</td> <td>3</td> <td>17人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人</td> <td>3</td> <td>17人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JKCTリマー C級	3	17人	15人	全国動物専門学校協会サロントリマー1級	3	17人	17人	JKCハンドラー C級	3	17人	17人	損害保険募集人	3	17人	14人
■卒業生数	17	人																																											
■就職希望者数	17	人																																											
■就職者数	17	人																																											
■就職率	100	%																																											
■卒業者に占める就職者の割合																																													
	100	%																																											
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																										
JKCTリマー C級	3	17人	15人																																										
全国動物専門学校協会サロントリマー1級	3	17人	17人																																										
JKCハンドラー C級	3	17人	17人																																										
損害保険募集人	3	17人	14人																																										
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 令和2年4月1日時点において、在学者118名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者116名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、精神的病気、経済的等  ■中退防止・中退者支援のための取組 ガイダンスの実施、関連セミナーの参加等			■中退率	1.7%																																								
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 穴吹カレッジ特待生制度、穴吹カレッジ社会人特待制度、穴吹カレッジ納入金免除制度  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																												
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																												
当該学科の ホームページ URL	http://www.anabuki-college.net/																																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
ペットとして飼育される動物の衛生管理、健康管理ができるトリマーを養成するため、動物飼養に関する知識を身につけられるカリキュラムを編成している。  
飼い主に信頼してもらうためには、動物の専門家として幅広い知識を身につける必要がある。現場で飼い主と直接接している委員から何が必要か、その為にどのようなカリキュラムが有効かを意見収集して、目標に沿った人材育成プログラムを改善構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年9月30日現在

名前	所属	任期	種別	学科
石川 勲	香川県健康福祉部生活衛生課	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	①	
篠原公七	有限会社ブリード 取締役(獣医師)	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③	動物看護総合
澁谷 泉	国立大学法人鳥取大学農学部共同獣医学科	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	②	
鈴木 ひとみ	サカイ商事株式会社 プーキー高松店 店長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③	動物健康管理ペット美容・グルーマ
原 有希	高知ラブドッグスクール 副所長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③	動物健康管理しつけインストラクター
岩澤 正俊	専門学校穴吹動物看護カレッジ			
荒岡 杉	専門学校穴吹動物看護カレッジ			
清水 泰	専門学校穴吹動物看護カレッジ			
采元 健二	専門学校穴吹動物看護カレッジ			

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回開催(第1回 11月・第2回 2月 予定)

(開催日時)

第1回 令和2年11月 11日 14:30～15:30

第2回 令和3年 2月15日 14:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・社会人として将来役立つコミュニケーション能力を作れる授業があれば積極的に取り組んでほしいとのご意見があり、R2年度9月から新たな教材会開発を行い高松校だけでなくすべてのエリアでR3年度から新規教材を使った【社会人基礎講座】を開講予定。  
・H31年度から看護総合学科系では遠隔授業を開始し、遠隔授業実施に関して貴重なご意見をいただいた。R2年度からは新型コロナウイルスの影響で全学科で座学を中心にオンライン授業を取り組むことになった。オンライン授業では、遠隔授業でご意見をいただいたことを念頭に置き実施をしたが、エリアによって音声・画像の乱れもあり影響が少ない実施方法(事前資料の配布など)の工夫を行い、今後の授業の可能性を感じることができた。オンライン授業についての学生へのアンケートでは、おおむね良かったとの意見が多かった。今後は座学だけでなく、実習をどのようにしていくかが課題でもある。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学内で身につけた知識、技術が企業等と連携した取り組みを通じてより一層のスキルアップにつながるようにする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当授業部分に関しては、期末に成績評価を企業の授業担当が行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
トレーニング実習	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	株式会社ドッグアドベンチャー

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

現在就いている職または将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な能力を及び資質等の向上を図るため、教員は学内および学外で研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げそれを教育の現場で反映させていくこととする。

学校は、教職員研修規定に従い、教員の業務経験や能力に応じて、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に関しては「管理者研修」、また各々指導分野における実務研修・見学研修を計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トリマー自主研修」(連携企業等: ジャパンケネルクラブ)

日時: 令和2年10月14日(水) 対象: トリマー系教員1名(実務年数1年以上)

内容: プードルの似合わせカットとカラーリングマニア□

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ルーブリック評価研修」(主催: 講師招聘による内部研修)

日時: 令和2年8月19日(水) 対象: 教員2名(実務経験10年以上)

内容: ルーブリック評価の基本理解と評価表の作成□

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「折れない学生の育て方」(主催: 株式会社 ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)

日時: 令和3年10月14日(木) 対象: 教員1名(実務経験2年)

内容: 教員力を上げるPSA診断&PSAコーチング□

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育活動の観察や意見交換などを通じて、学校運営及び教育活動などの評価を積極的に行い、その結果に基づき改善を図ることにより、良い人材の育成に努める

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	教育理念、目的、育成人材像が定められているか、等
(1) 教育理念・目標	教育理念に沿った運営方針が策定されているか、等
(2) 学校運営	教育理念に沿った教育課程の明文化、実施ができているか、等
(3) 教育活動	資格取得向上、就職率向上が図られているか、等
(4) 学修成果	退学率の低減、就職等進路支援の充実は図られているか、等
(5) 学生支援	設備、教育環境は整っているか、防災、安全管理の体制は十分か、等
(6) 教育環境	学生募集は積極的・効果的に実施されているか。納付金の取り扱いは適切か、等
(7) 学生の受入れ募集	財務基盤は安定しているか。財務情報の公開は適切か、等
(8) 財務	法令順守と適正な運営がなされているか。自己評価を実施し公開しているか、等
(9) 法令等の遵守	学校の教育資源や施設を利用し社会貢献・地域貢献できているか、等
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員からのコメントや意見をもとに、各評価項目の改善に取り組んでいる  
卒業生の就労状況の把握、離職の把握などの必要性に指摘があり、卒業生に対する現状把握に取り組んだ

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
木村昭代	南天堂薬局	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	近隣居住者委員
蓮井良太	はすい動物病院	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	業界委員
木村紗也歌	はすい動物病院	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	卒業生
富家 勲	学生保護者	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	PTA
森川崇	元県立観音寺中央高校校長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	元高校関係委員
池田 宏樹	県立農業経営高等学校校長	令和3年7月1日～令和3年10月31日(3か月)	高校関係委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業などの関係者に学校運営及び教育活動等の理解を深めていただくため、積極的に情報を公開し説明に取り組む。情報公開のツールとしてホームページ、学校パンフレット、募集要項等を利用する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画、等
(2) 各学科等の教育	定員数、入学数、卒業者数、カリキュラム、資格取得の状況な、等
(3) 教職員	教職員の概要、等
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、職業支援等への取り組み状況、等
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動の取り組み、等
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況、等
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援(奨学金、授業料免除等の案内)、等
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支決算書、等
(9) 学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、等
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物健康管理学科ペット美容・グルーマー専攻) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ実習	コンピュータの基本操作から応用までを学ぶ。目標としてワードとエクセルとホームページ制作の資格試験合格を目指す。	1後2前	60	2			○	○			○	
○			社会人基礎講座	社会人として必要な常識・マナーを身に付ける。自立に向けての意識の向上を図り、就職活動の早期化・活性化を実現する。	1通2通	210	14	○			○		○		
○			犬種標準学	犬の種類と特徴を知ること、犬との触れ合い方や飼養方法を学ぶ。	1通	60	4	○			○		○		
○			動物看護学	犬猫に良く見られる疾病とその処置について学ぶ。	1後2後	60	4	○			○		○		
○			繁殖飼育学	犬の繁殖に関して、繁殖適期や禁忌となるブリーディングなどについて学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
○			動物飼養管理学	動物に関する法律・動物の習性・疾病・適切な飼養について学び、愛玩動物と人との共存を考える。動物飼養管理士の資格取得を目指す。	1通2通	180	12	○			○		○		
○			動物行動学	動物、おもに犬についての生態、行動を学び理解する。動物と人間がいかに共存できるか学習する。	1前	30	2	○			○			○	○
○			トレーニング実習	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	1通	60	2			○	○			○	○
○			グルーミング総論	グルーミングに関する基礎知識をまなび、実習につなげる	1前	30	2	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物健康管理学科ペット美容・グルーマー専攻) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グルーミング各論	各犬種のグルーミング知識をまなび、実習につなげる。サロントリマー3級検定の学科試験対策。	1後	30	2	○			○		○		
			トリミング総論	トリミングに必要な知識を身につけ、技術の向上につなげる。	2前	30	2	○			○		○		
			トリミング各論	JKC C級検定合格に必要なトリミングの知識を身につける。検定の学科試験対策	2後	30	2	○			○		○		
○			グルーミング基礎実習	グルーミング(犬の美容)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方を学ぶ。	1前	210	7			○	○		○		
			グルーミング応用実習	グルーミング(犬の美容)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方を学ぶ。	1後	180	6			○	○		○		
○			トリミング実習	トリミング(犬のカット)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方、様々なカット様式を学ぶ。	2前	240	8			○	○		○		
○			プロフェッショナルトリミング	トリマーに必要な高度なトリミング技術を学ぶ。	2後	270	9			○	○		○		
○			動物機能形態学	犬種ごとの骨格構成や性質を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			ハンドリング学	ショーハンドリングを習得することにより、犬の心理状況や扱いを学ぶ。	1後 2前	60	2			○	○		○		
合計			18 科目		1800単位時間( 84単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
期末試験・実技評価・出席率等で評価 評価はA, B, C, Dの4段階とし、A, B, Cを合格とする。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校 穴吹動物看護カレッジ	平成18年3月23日	岩澤 正俊	〒760-0047 香川県高松市塩屋町6-2 (電話) 087-826-2222																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人穴吹学園	平成3年4月10日	穴吹忠嗣	〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-2266																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化・教養専門課程	動物健康管理学科 しつけインストラクター専攻	平成20年文部科学省 告示第3号	-																							
学科の目的	ペット分野で即活躍できるドッグトレーナーを育てることを目的とする																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1800時間	780時間	0時間	1020時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
40人	16人	0人	6人	3人	9人																						
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験・実技評価・出席率等で評価 評価はA,B,C,Dの4段階とし、A,B,Cを合格とする。																						
長期休み	■夏 季: 7月～9月で校長が定めた日 ■冬 季: 12月～1月で校長が定めた日 ■春 季: 3月～4月で校長が定めた日			卒業・進級 条件	原則として下記条件をすべて満たした者 ① 成績評価C以上 ② 年間出席率80%以上 ③ 学費が納入されている																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人とのまた、保護者を含めた三者面談の実施			課外活動	■課外活動の種類 清掃活動  ■サークル活動: 有																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 訓練所、ペットショップ等  ■就職指導内容 面接練習・社会人基礎講座・インターンシップの実施  ■卒業生数 6人 ■就職希望者数 4人 ■就職者数 4人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 100%  ■その他  (令和2年度卒業生に関する 平成33年3月15日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>犬と人の共生推進委員会主催 しつけインストラクター検定 A級</td> <td>3</td> <td>6人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>家庭犬訓練資格試験(中等科)</td> <td>3</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>JKCハンドラーC級</td> <td>3</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>損害保険募集人</td> <td>3</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	犬と人の共生推進委員会主催 しつけインストラクター検定 A級	3	6人	3人	家庭犬訓練資格試験(中等科)	3	6人	5人	JKCハンドラーC級	3	6人	6人	損害保険募集人	3	6人	5人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
犬と人の共生推進委員会主催 しつけインストラクター検定 A級	3	6人	3人																								
家庭犬訓練資格試験(中等科)	3	6人	5人																								
JKCハンドラーC級	3	6人	6人																								
損害保険募集人	3	6人	5人																								
中途退学 の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 1.7% 令和2年4月1日時点において、在学者118名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者116名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由  ■中退防止・中退者支援のための取組 ガイダンスの実施、関連セミナーの参加等																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 穴吹カレッジ特待生制度、穴吹カレッジ社会人特待制度、穴吹カレッジ納入金免除制度  ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	http://www.anabuki-college.net/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
ペットとして飼育される動物の衛生管理、健康管理ができるトレーナーを養成するため、動物飼養に関する知識を身につけられるカリキュラムを編成している。  
飼い主に信頼してもらうためには、動物の専門家として幅広い知識を身につける必要がある。現場で飼い主と直接接している委員から何が必要か、その為にどのようなカリキュラムが有効かを意見収集して、目標に沿った人材育成プログラムを改善構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年9月30日現在

名前	所属	任期	種別	学科
石川 勲	香川県健康福祉部生活衛生課	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	①	
篠原公七	有限会社ブリード 取締役(獣医師)	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③	動物看護総合
澁谷 泉	国立大学法人鳥取大学農学部共同獣医学科	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	②	
鈴木 ひとみ	サカイ商事株式会社 プーキー高松店 店長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③	動物健康管理ペット美容・グルーマ
原 有希	高知ラブドッグスクール 副所長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	③	動物健康管理しつけインストラクター
岩澤 正俊	専門学校穴吹動物看護カレッジ			
荒岡 杉	専門学校穴吹動物看護カレッジ			
清水 泰	専門学校穴吹動物看護カレッジ			
采元 健二	専門学校穴吹動物看護カレッジ			

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回開催(第1回 11月・第2回 2月 予定)

(開催日時)

第1回 令和2年11月 11日 14:30～15:30

第2回 令和3年 2月15日 14:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・動物健康管理学科しつけインストラクター専攻授業数についてご意見があったが、専門学校の授業規定に則って行っていることをご理解いただく。また、座学についてのご意見もいただいたので、R2年度から【ドッグケア学】という新規科目の開講し、犬の一生、ライフステージごとのアドバイスが行える学びを追加した。

・社会人として将来役立つコミュニケーション能力を作れる授業があれば積極的に取り組んでほしいとのご意見があり、R2年度9月から新たな教材会開発を行い高松校だけでなくすべてのエリアでR3年度から新規教材を使った【社会人基礎講座】を開講予定。

・H31年度から看護総合学科系では遠隔授業を開始し、遠隔授業実施に関して貴重なご意見をいただいた。R2年度からは新型コロナウイルスの影響で全学科で座学を中心にオンライン授業を取り組むことになった。オンライン授業では、遠隔授業でご意見をいただいたことを念頭に置き実施をしたが、エリアによって音声・画像の乱れもあり影響が少ない実施方法(事前資料の配布など)の工夫を行い、今後の授業の可能性を感じることができた。オンライン授業についての学生へのアンケートでは、おおむね良かったとの意見が多かった。今後は座学だけでなく、実習をどのようにしていくかが課題でもある。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学内で身につけた知識、技術が企業等と連携した取り組みを通じてより一層のスキルアップにつながるようにする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当授業部分に関しては、期末に成績評価を企業の授業担当が行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
トレーニング実習	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	株式会社ドッグアドベンチャー
AAA実習	動物介在活動の意義を理解し、よりよい活動方法を考える。	株式会社日本ドルフィンセンター、有料老人ホーム

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

現在就いている職または将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な能力を及び資質等の向上を図るため、教員は学内および学外で研修に参加し、自らの見識・技能の幅を広げそれを教育の現場で反映させていくこととする。

学校は、教職員研修規定に従い、教員の業務経験や能力に応じて、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に関しては「管理者研修」、また各々指導分野における実務研修・見学研修を計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トリマー自主研修」(連携企業等: ジャパンケネルクラブ)

日時: 令和2年10月14日(水) 対象: トリマー系教員1名(実務年数1年以上)

内容: プードルの似合わせカットとカラーリングマニア□

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ルーブリック評価研修」(主催: 講師招聘による内部研修)

日時: 令和2年8月19日(水) 対象: 教員2名(実務経験10年以上)

内容: ルーブリック評価の基本理解と評価表の作成□

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「折れない学生の育て方」(主催: 株式会社 ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)

日時: 令和3年10月14日(木) 対象: 教員1名(実務経験2年)

内容: 教員力を上げるPSA診断&PSAコーチング□

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育活動の観察や意見交換などを通じて、学校運営及び教育活動などの評価を積極的に行い、その結果に基づき改善を図ることにより、良い人材の育成に努める

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	教育理念、目的、育成人材像が定められているか、等
(1) 教育理念・目標	教育理念に沿った運営方針が策定されているか、等
(2) 学校運営	教育理念に沿った教育課程の明文化、実施ができているか、等
(3) 教育活動	資格取得向上、就職率向上が図られているか、等
(4) 学修成果	退学率の低減、就職等進路支援の充実は図られているか、等
(5) 学生支援	設備、教育環境は整っているか、防災、安全管理の体制は十分か、等
(6) 教育環境	学生募集は積極的・効果的に実施されているか。納付金の取り扱いは適切か、等
(7) 学生の受入れ募集	財務基盤は安定しているか。財務情報の公開は適切か、等
(8) 財務	法令順守と適正な運営がなされているか。自己評価を実施し公開しているか、等
(9) 法令等の遵守	学校の教育資源や施設を利用し社会貢献・地域貢献できているか、等
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員からのコメントや意見をもとに、各評価項目の改善に取り組んでいる  
卒業生の就労状況の把握、離職の把握などの必要性に指摘があり、卒業生に対する現状把握に取り組んだ

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
木村昭代	南天堂薬局	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	近隣居住者委員
蓮井良太	はすい動物病院	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	業界委員
木村紗也歌	はすい動物病院	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	卒業生
富家 勲	学生保護者	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	PTA
森川崇	元県立観音寺中央高校校長	令和2年11月1日～令和3年10月31日(1年)	元高校関係委員
池田 宏樹	県立農業経営高等学校校長	令和3年7月1日～令和3年10月31日(3か月)	高校関係委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.anabuki.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業などの関係者に学校運営及び教育活動等の理解を深めていただくため、積極的に情報を公開し説明に取り組む。情報公開のツールとしてホームページ、学校パンフレット、募集要項等を利用する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画、等
(2) 各学科等の教育	定員数、入学数、卒業者数、カリキュラム、資格取得の状況な、等
(3) 教職員	教職員の概要、等
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、職業支援等への取り組み状況、等
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動の取り組み、等
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況、等
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援(奨学金、授業料免除等の案内)、等
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支決算書、等
(9) 学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、等
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物健康管理学科しつけインストラクター専攻) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ実習	コンピュータの基本操作から応用までを学ぶ。目標としてワードとエクセルの資格試験合格を目指す。	1後 2前	60	2			○	○			○	
○			社会人基礎講座	社会人として必要な常識・マナーを身に付ける。自立に向けての意識の向上を図り、就職活動の早期化・活性化を実現する。	1通 2通	210	14	○			○		○		
○			犬種標準学	犬の種類と特徴を知ること、犬との触れ合い方や飼養方法を学ぶ。	1通	60	4	○			○		○		
○			ペット美容学	犬の健康維持と手入れの基本を学び、顧客の相談に対応できるようにする。	1前 2後	60	4	○			○		○		
○			グルーミング実習	グルーミング(犬の美容)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方を学ぶ。	1通	210	7			○	○		○		
○			トリミング実習	トリミング(犬のカット)に必要な犬の扱い方と、美容道具の扱い方、様々なカット様式を学ぶ。	2通	120	4			○	○		○		
○			繁殖飼育学	犬の繁殖に関して、繁殖適期や禁忌となるブリーディングなどについて学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
○			動物飼養管理学	動物に関する法律・動物の習性・疾病・適切な飼養について学び、愛玩動物と人との共存を考える。動物飼養管理士の資格取得を目指す。	1通 2通	180	12	○			○		○		
○			動物行動学	動物、おもに犬についての生態、行動を学び理解する。動物と人間がいかに共存できるか学習する。	1前	30	2	○			○			○	○
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程動物健康管理学科しつけインストラクター専攻) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			しつけトレーニング実習	犬が人間社会で暮らしていくために必要なルールやマナーを学ぶ。訓練基礎を習得する。	1通 2通	300	10			○	○			○	○
○			動物看護学	犬猫に良く見られる疾病とその処置について学ぶ。	1後 2後	60	4	○			○		○		
○			動物機能形態学	犬種ごとの骨格構成や性質を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			ハンドリング学	ショーハンドリングを習得することにより、犬の心理状況や扱いを学ぶ。	1後 2前	60	2			○	○		○		
○			問題行動学	犬の生態を理解し、人間と動物の共存について学ぶ。	2通	60	4	○			○			○	○
○			AAA実習	動物介在活動の意義を理解し、よりよい活動方法を考える。	2通	60	2			○		○	○		○
○			アジリティ実習	アジリティの基本や歴史から犬との信頼関係の大切さを学ぶ。	1通 2通	210	7			○		○		○	○
○			ドッグトレーニング概論	ドッグトレーニングの重要性を理論的に理解し、実践に役立てる。	1後	30	4	○			○		○		
○			ドッグケア学	犬の一生（ライフステージごと）のアドバイスができる学び。	1前	30	2	○			○		○		
合計					18科目	1800単位時間(			88単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
期末試験・実技評価・出席率等で評価 評価はA, B, C, Dの4段階とし、A, B, Cを合格とする。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。